

第5章 通り・エリアの将来イメージ

この章では、主要な通りやエリアの将来イメージを示しています。このイメージをもとに、様々な主体が関わりながらまちづくりを進めるための「理想像」を示しています。

1. 通り・エリアの将来イメージの考え方

「第2章 まちづくりのコンセプト」、「第3章 グランドデザイン」、「第4章 まちづくりの方針」を踏まえ、通りやエリアについて8つの将来イメージを作成しました。

これは、理想を描いたイメージであり、実現にあたっては、関わる様々な主体が協議を重ね、「第3章 グランドデザイン」及び「第4章 まちづくりの方針」をもとに柔軟に具体化していく必要があります。なお、次ページ以降の将来イメージでは、通り・エリアごとに特徴のある内容を記載しています。

次の取組みは、平塚駅周辺地区全体で実現に向けて取り組むことを想定しています。

- 方針5** ▶ 滞留空間と併せてみどりを配置すること
▶ 集水効果の高い樹木や雨水が浸透する仕組みを検討すること
- 方針6** ▶ 誰もが歩きやすい歩行環境を整備すること
▶ 買い物時の駐輪・駐車システムを検討すること
▶ 居住者・荷捌きなどの駐車場動線を工夫すること
- 方針7** ▶ デジタルサイネージを活用し来街者へ情報提供すること
▶ フリーWi-Fiなどを整備すること

対象の通り・エリア

①湘南スターモール
豊かで楽しい時間を過ごせる
みんなのメインストリート

②紅谷パールロード
店舗内と道路空間を一体的に活用し
飲食をメインテーマとするモール

③大門通り・浜大門通り
平塚八幡宮の表参道として
にぎわいや落ち着いたあるストリート

④公園通り
プロスポーツとみどりを感じる
活力とやすらぎのあるストリート

⑤フェスタロード
平塚の最新技術を
世界へ発信するストリート

⑦公園・広場

⑧駅前広場
北口:様々な公共交通へ乗り換えやすく
多様な活動と平塚の魅力に
出会える拠点
南口:様々な公共交通へ乗り換えやすく
海を感じる交流拠点
西口:より快適に電車に乗り換えられる
平塚の活力を感じる新しい拠点

⑥見附台周辺
江戸見附のある東海道を感ずるエリア

⑦公園・広場
安全で快適に過ごし
集い交流できる公園・広場

2. 通り・エリアの将来イメージ

(1) 湘南スターモール

湘南スターモールは、湘南ひらつか七夕まつりのメイン通りです。

商店会では、この通りのまちづくりのガイドライン「湘南スターモールでめざすまち」を作成し、その実現のための活動を進めています。

今後も七夕まつりのメイン通りを維持しつつ、周辺住民や来街者が回遊するように商店街の連続性や機能を維持していくとともに、歩道空間を活用した滞留機能をつくることで、ゆっくり滞在したくなる空間を目指す通りです。

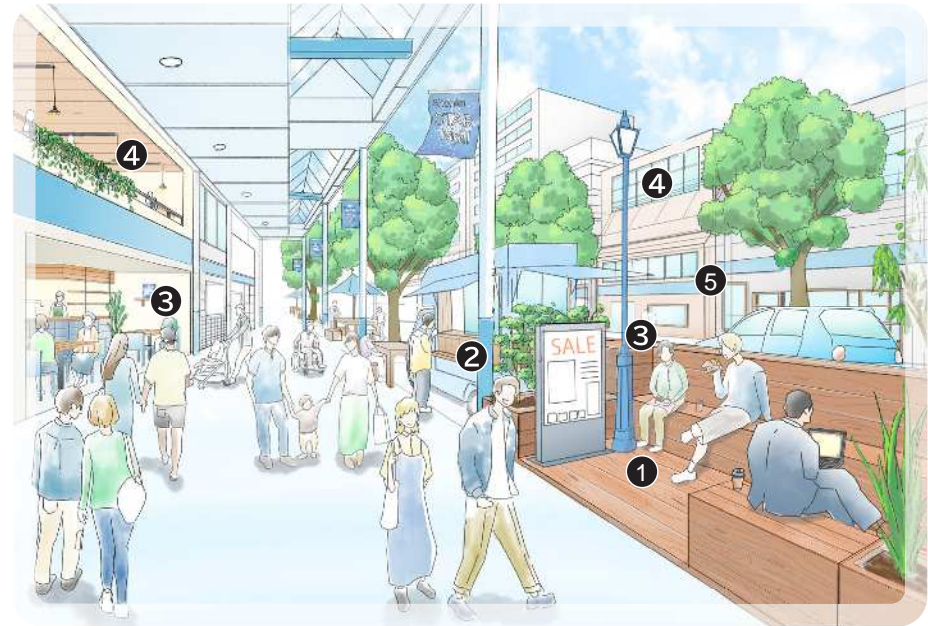
■ 通りの将来像

豊かで楽しい時間を過ごせる
みんなのメインストリート

■ まちづくりの方向性

- 商店街としてのにぎわいが感じられ、ゆっくり回遊することができる空間や機能をつくり、湘南スターモールらしい景観の創出を目指します。
- 商店会や沿道店舗が店舗と公共空間(歩道状空間、広場などを含む)を一体的に活用できる仕組みを検討し日常とは違うにぎわいの創出などに活用できる空間を目指します。
- 商店街のつながりをつくるため、建物低層部は店舗や事務所など多機能な場とすることが考えられます。また、道路空間も店舗と連携した活用を図ることで飲食や滞留などを生む多機能な場を創出しベストなテナントミックスを目指します。
- 市有地を含む敷地などについては、有効に活用し都市機能の誘導を進めていく機会の創出を目指します。

参考イメージ



- ①湘南スターモールらしい景観を演出 **方針1**
- ②七夕まつりのための仕掛けを維持 **方針1**
- ③道路空間と連携したゆっくり滞留できる店舗などの出店を推奨 **方針2**
- ④建物低層部は多様な用途を誘導 **方針3**
- ⑤商店街の連続性を維持 **方針4**

方針〇 対応するまちづくりの方針を示しています。なお、複数の方針が対応している場合は、代表的な方針を示しています。また、地区全体に関わる方針は記載せず、当該エリアの特徴的な方針のみ示しています。

コラム

○ハッピープロジェクトの実施

湘南スターモールでは、商店街振興組合が主催し紅谷町まちかど広場を中心に、周辺の道路を活用したイベントが実施されています。

まちかど広場では、3×3プロバスケットボールチーム「SHONAN SEASIDE」によるバスケ体験や平塚農商高校など学校による出店があり、周辺の道路ではキッチンカーや休憩スペースが設置され、イベント当日は、多くの人でにぎわいます。

まちづくりガイドラインにあるような「ベストなテナントミックス」は、必ずしも店舗だけで実現するものではなく、広場や道路空間なども活用して官民が連携して創出していくことが大切です。

また、このようなイベントを通じて様々な主体の連携が生まれ、日常とは違った魅力によるにぎわいを創出しています。

ハッピープロジェクトの様子



○店舗と公共空間の一体性の創出の例

東京都千代田区 大丸有地区

東京都千代田区の大丸有地区では、オフィスビルの建替えと併せて、業務機能に特化したまちから、人中心の魅力あるまちへの転換を目指し、まちづくりのガイドラインを策定しています。

ガイドラインでは、まちなみをデザインするための考え方として建物と歩行空間が協調した空間となるよう、店舗やギャラリーの沿道への立地や店舗のオープン化、ストリートファニチャー[※]の設置などが示されています。

建物と歩行空間の協調のイメージ



出典：大丸有エリアマネジメント協会ウェブサイト

参考イメージ

(2) 紅谷パールロード

紅谷パールロードは、平塚駅周辺の主要な通りの中で唯一、全面に段差がなく、歩行者専用(時間帯規制あり)となっている商店街です。

北口駅前広場から直結する通りで、飲食店や物販店が集積しており、「湘南ひらつか駅前骨董市」など様々なイベントも行われています。

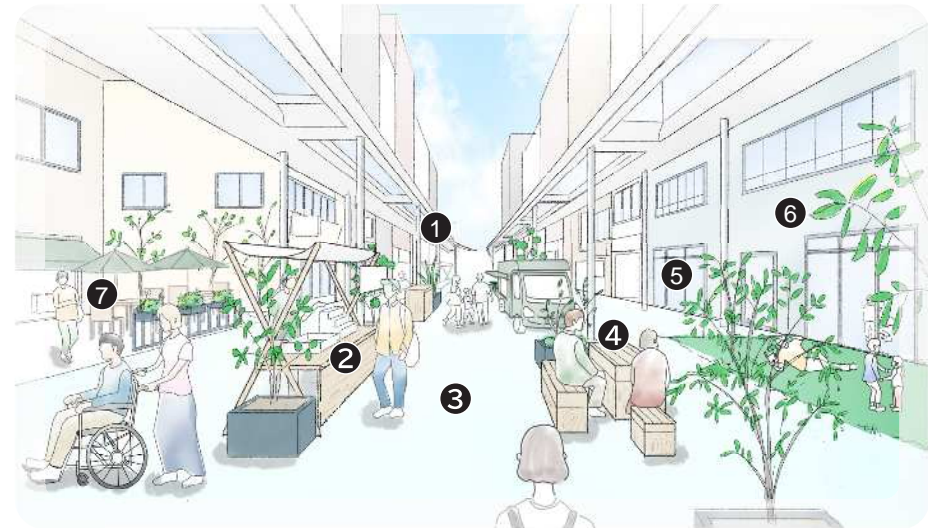
このような特性を活かして、商業の集積を維持することに加え、滞留空間の設置などによる店舗と道路の一体的な活用や、多様な使い方ができる空間を目指す通りです。

通りの将来像

店舗内と道路空間を一体的に活用し
飲食をメインテーマとするモール

まちづくりの方向性

- 既存の機能集積を活かした道路空間の活用について検討し、日常でもにぎわいのある通りの創出を目指します。また、七夕まつりをはじめとするイベントのための仕掛けを維持します。
- 歩行者専用道路(時間帯規制あり)を継続し、日常時も滞留やにぎわいを創出できる空間の確保を目指します。
- 商店街のつながりをつくるため、建物低層部は店舗や事務所など多機能な場とすることが考えられます。また、道路空間を活用し飲食の仮設店舗やキッチンカーなどの出店を推奨し起業の機会につなげます。
- 地域住民によるガイドラインを作成し建物の更新と併せて多くの人が集まる機能の誘導を目指すとともに空間の運用、管理について具体化を図ります。



- ①平塚の顔となる景観の演出 **方針1**
- ②キッチンカーや仮設店舗で短期の出店機会を創出 **方針2**
- ③イベント時の道路の柔軟な活用 **方針2**
- ④店舗と連携して誰もが気軽に集まれる場を創出 **方針2**
- ⑤モバイルフード*片手に食べ歩きできる店舗の誘導 **方針3**
- ⑥飲食店を中心とした商業集積の推進 **方針3**
- ⑦広場や魅力的なカフェでゆっくり時間を過ごせる場を建替えに併せて創出 **方針4**

方針○ 対応するまちづくりの方針を示しています。なお、複数の方針が対応している場合は、代表的な方針を示しています。また、地区全体に関わる方針は記載せず、当該エリアの特徴的な方針のみ示しています。

コラム

○湘南ひらつか駅前骨董市の実施

紅谷パールロードでは、湘南ひらつか駅前骨董市実行委員会が主催し、「湘南ひらつか駅前骨董市」を開催しています。毎月第4土曜日に開催され、段差のない道路全体を活用し、多くの骨董商によりにぎわいを創出しています。紅谷パールロードは、飲食店が集積している通りですが、歩行者専用(時間規制あり)を活かし、このような定期開催のイベントを通じて日常でもにぎわいのある通りを創出していくことにつなげています。

湘南ひらつか駅前骨董市の様子



○夕暮れ夏祭りの実施

他の商店会と連携した「夕暮れ夏祭り」が実施されています。紅谷パールロードでは、骨董市と同様に道路全体を活用し、子ども向けのワークショップの実施や音楽ライブの開催、キッチンカーや飲食スペースの設置が行われています。

通りの特性である飲食店の集積と道路の活用を合わせることで、飲食店でテイクアウトして道路に設置された滞留スペースで食事をするなどの行動が生まれており、公共空間が商店街のお店の一部のようになっています。このような取組みは、商店街への出店の機会にもつながります。

夕暮れ夏祭りの様子



(3)大門通り・浜大門通り

大門通り・浜大門通りは、令和元年度に「大門通り・浜大門通り空間形成ガイドライン」を作成し、「平塚八幡宮の表参道として、にぎわいや落ち着きのある雰囲気をつくる！」を目標に平塚八幡宮の鳥居と同じ色である「大門レッド」を活用したまちづくりなど様々な取組みを進めています。また、ぼんぼり市や夕暮れ酒場など様々なイベントも行われています。

平塚商業発祥の地として、平塚八幡宮の表参道を感じられる空間を目指す通りです。

■通りの将来像

平塚八幡宮の表参道として にぎわいや落ち着きのあるストリート

■まちづくりの方向性

- 表参道の雰囲気を演出する植栽やベンチなどを配置した滞留空間を形成します。
- 官民連携で歩道(歩行空間)を広げることで、参道として歩きたくなる歩行者優先の道路となるように検討していきます。
- 商店街のつながりをつくるため、建物低層部は店舗や事務所など多機能な場とすることが考えられます。また、道路空間と連携した参道にふさわしいにぎわいや落ち着きのある店舗などの出店を推奨していきます。

参考イメージ



- ①街灯や店舗の色彩統一による八幡宮とのつながり創出 **方針1**
- ②通りの雰囲気にあった滞留空間形成 **方針2**
- ③ゆとりある歩行空間を官民連携により確保 **方針2**
- ④店舗と連携して歩道の空間を活用 **方針2**
- ⑤モバイルフードや茶屋など、参道の雰囲気に合った店舗を誘導 **方針3**



方針○ 対応するまちづくりの方針を示しています。なお、複数の方針が対応している場合は、代表的な方針を示しています。また、地区全体に関わる方針は記載せず、当該エリアの特徴的な方針のみ示しています。

コラム

○ぼんぼり市の実施

大門通りに面する大門会の主催で初秋の風物詩である平塚八幡宮の行事「ぼんぼり祭り」に併せて「ぼんぼり市」が開催されています。

このイベントは、夜市だけでなく街灯に飾るぼんぼりや足元のキャンドルを掲出することで、現在は国道1号線によって分断されている平塚八幡宮との一体感を創出して、参道としての景観を演出しています。

ぼんぼり市の様子



○「大門レッド」を活用した官民が連携した景観形成の実施

大門通り、浜大門通りでは、平塚八幡宮の鳥居の色を「大門レッド」と名付け、店舗の看板や店先に設置する機材、道路に設置された照明灯に活用し、官民が一体となった景観形成を進めています。この取組みは、通り全体で表参道にふさわしい落ち着いた街並み・景観をイメージした空間づくりにつながっています。

大門レッドを活用した景観形成



(4)公園通り

公園通りは、平塚駅西口から平塚市総合公園につながる通りです。平塚市総合公園は、サッカーや野球、バスケットボールなどプロスポーツの試合会場となっているほか、市民のレクリエーションの場となっています。

公園通りには、スポーツ観戦ができる飲食店などが立地しています。

このような特性を活かして多様なスポーツやみどりを感じることができ、来街者をお出迎えする空間を目指す通りです。

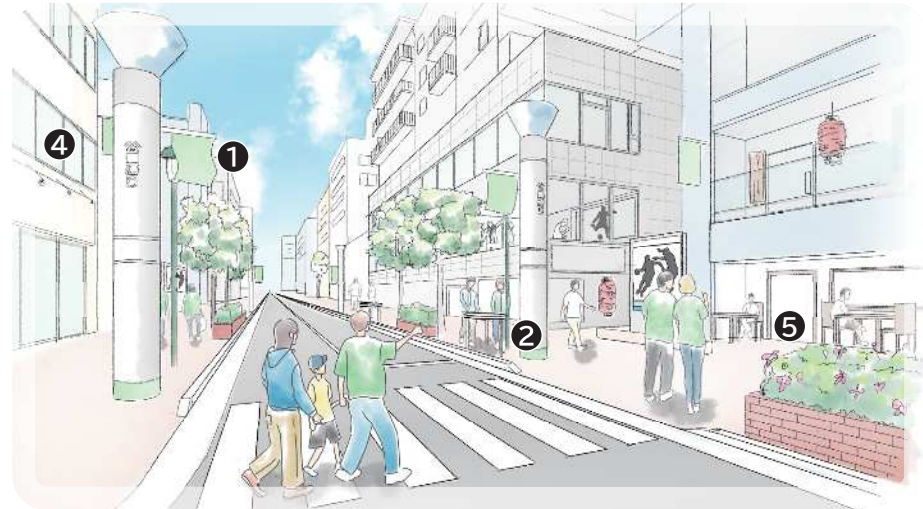
■通りの将来像

プロスポーツとみどりを感じる
活力とやすらぎのあるストリート

■まちづくりの方向性

- 通りを一体的に活用し、プロスポーツと連携した日常的なにぎわいやイベントの実施など活力を感じる空間とともに、平塚市総合公園へつながる通りとして、来街者をお出迎えする連続したみどり(グリーンネットワーク)を形成し、やすらぎのある居心地の良い空間を目指します。
- 歩道は、歩行空間を確保しつつスポーツ観戦などを目的とした来街者などが集まりにぎわいの生まれる場として活用できる空間の確保を目指します。
- 来街者がまちの活力を感じるように、建物低層部は店舗や事務所など多機能な場とすることが考えられます。また、商店会や店舗が店舗と公共空間(歩道状空間、広場などを含む)を一体的に利用できる仕組みを検討します。
- 地域住民によるガイドラインを作成し建物の更新と併せて多くの人が集まる機能の誘導を目指すとともに空間の運用、管理について具体化を図ります。

参考イメージ



①スポーツチームなどのイメージカラーを活用した景観形成 **方針1**

②店舗と歩道を一体的に活用し開放感のある空間を創出 **方針2**

③店舗と連携して滞留空間を創出 **方針2**

④建物低層部は多様な用途を誘導 **方針3**

⑤建替えに併せて来街者が集まる機能を誘導 **方針3**



方針 対応するまちづくりの方針を示しています。なお、複数の方針が対応している場合は、代表的な方針を示しています。また、地区全体に関わる方針は記載せず、当該エリアの特徴的な方針のみ示しています。

コラム

○プロスポーツを取り入れたにぎわいの創出

平塚駅西口を出て公園通りに至る通りの入口部分には、湘南ベルマーレのホームタウンのひとつを示すモニュメントが設置されています。

また、平塚市総合公園までの区間にはフラッグが設置され、プロスポーツを感じる取組みが進められており、通り沿いにはスポーツ観戦のできる飲食店も立地しています。

平塚市総合公園では、サッカーのほかにも野球やバスケットボールなどのプロスポーツの試合などが行われているため、これらを取り入れ、さらに特性を活かした空間づくりを進めることが考えられます。

プロスポーツを取り入れたまちづくりの例



○平塚市総合公園までのグリーンネットワークの創出

公園通りの国道1号線より南と北で別々の種類の街路樹が植栽されています。今後は、植栽を統一させることや季節にあった植栽をするなど平塚市総合公園まで連続したみどりを創出することで来街者をお出迎えし、気持ち良く歩ける空間づくりを進めることにつながります。

みどりの創出にあたっては、アダプト制度[※]などを活用し市民や商店街が行政と協力していくことも考えられます。

連続したみどりの例



(5)フェスタロード

フェスタロードは、平塚駅北口から市役所などの行政機関や文化施設の集積する地区につながる通りであり、「平塚市景観計画」において本市の顔としての魅力や活力を印象づける「都市のシンボル軸」に位置しています。

また、様々な交通が集まる幅員の広い道路です。

このような特性を活かして平塚発の新技术などを活用した先進的な空間を目指す通りです。

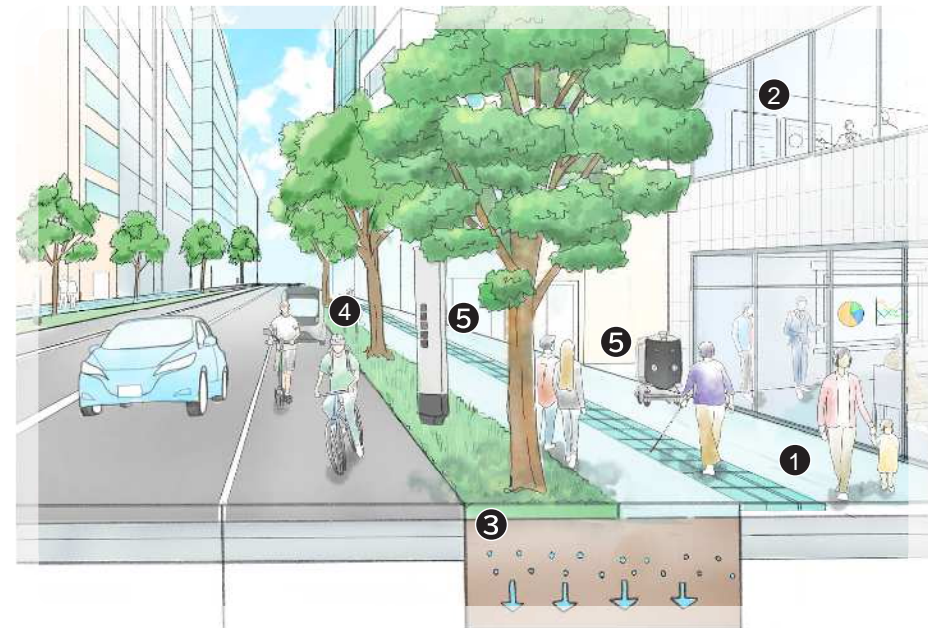
■通りの将来像

平塚の最新技術を
世界へ発信するストリート

■まちづくりの方向性

- 都市の顔となるシンボル軸を形成するため、建物低層部は店舗などとし事務所、ホテルなど既存の機能集積を踏まえた機能の更新、向上を図るとともに歩道内で余裕のある部分を活用できるようにし、新技术などを生み、発信できるような空間確保を目指します。
- イベント時などには、公共空間(歩道状空間、広場などを含む)を企業などが柔軟に活用できる仕組みを検討していきます。
- 平塚の顔となる景観がある場となるよう、建替えに併せて市の玄関口にふさわしいデザインの誘導やオープンスペースの確保を目指します。
- 公共空間(道路・広場)を活用し、新技术を実験できるような仕組みをつくっていくとともに発展に対応できるよう、常に実験し続けられるような仕組みを検討します。

参考イメージ



- ①来街者が最新技術に触れる機会の創出 **方針1**
- ②企業間で新技术について連携できる事務所などの創出 **方針3**
- ③雨水の浸透する植栽帯などの整備 **方針5**
- ④自動運転など最新技術の社会実験の実施を検討 **方針7**
- ⑤最新技術を公共空間で実験できる仕組みの検討 **方針7**

方針〇 対応するまちづくりの方針を示しています。なお、複数の方針が対応している場合は、代表的な方針を示しています。また、地区全体に関わる方針は記載せず、当該エリアの特徴的な方針のみ示しています。

コラム

○平塚の技術を発信する取組み「ひらつか産業FES」

平塚商工会議所と会員の事業所により自社・自店のサービスや製品、技術を広く市民に紹介する「ひらつか産業FES」が平塚文化芸術ホール及び隣接する見附台公園で開催されています。

地域の事業所や店舗の交流や、専門性や強み、高い技術力や製品開発などを紹介する場となっています。

フェスタロードでも広い幅員の道路やオフィスなどの沿道の機能を活かし、企業間で連携できる場所や仕組みをつくっていくことが考えられます。

ひらつか産業FESの様子



○公共空間を活用した社会実験の実施

平塚駅南口エリアにおいて、本市と神奈川中央交通株式会社が連携し、既存バス路線(平15系統)と同様の走行ルートで、路線バス自動運転の実証実験を実施しています。

フェスタロードでも道路空間を活用して最新技術の社会実験を実施していくことが考えられます。

自動運転バスの実証実験の様子



(6)見附台周辺

見附台周辺の東海道本通り線は、「平塚市景観計画」において「歴史軸」に位置し、旧東海道にまつわる歴史の発掘と高麗山への眺望を活かしながら平塚宿のにぎわいを再生していくこととされています。近年は、平塚文化芸術ホールへの整備に伴い、商業施設の誘致や道路空間の整備が進められました。

今後もこれらの機能を維持するとともに、歴史軸として、平塚宿、江戸見附などの雰囲気を感じられる空間づくりを目指すエリアです。

■通りの将来像

江戸見附のある 東海道を感じるエリア

■まちづくりの方向性

- 平塚の顔となる景観をつくるために、平塚宿のにぎわいを感じられる空間活用や高麗山への視線を妨げないように建物の高さや屋上設備類の露出、屋上看板の設置について配慮していきます。また、旧東海道の雰囲気を感じられる樹木を検討します。
- 歩道は、歩行空間を確保しつつ平塚宿のにぎわいを感じられる場として活用できる空間の創出を目指します。
- 来街者の利便性向上を目指し、建物低層部は店舗や事務所など多機能な場とすることが考えられます。引き続き平塚の歴史や文化芸術活動などの発信の場を維持・創出することが考えられます。
- 地域住民によるガイドラインを作成し、商店会や店舗が店舗と公共空間（歩道状空間、広場などを含む）を一体的に活用できる仕組みや管理について具体化を図るとともに、建物の更新の際には多くの人が集まる機能の創出を目指します。

参考イメージ



- ①高麗山の眺望に配慮した設備配置 **方針1**
- ②イベント時に平塚宿の雰囲気にあった休憩施設を設置 **方針2**
- ③道路空間を実験的に活用できる仕組みを検討 **方針2**
- ④平塚の歴史や文化芸術活動などの発信機能の維持 **方針3**
- ⑤平塚宿を演出する樹木の検討 **方針5**



方針○ 対応するまちづくりの方針を示しています。なお、複数の方針が対応している場合は、代表的な方針を示しています。また、地区全体に関わる方針は記載せず、当該エリアの特徴的な方針のみ示しています。

コラム

○平塚宿を感じられる取組み

平塚文化芸術ホールの建設を含む見附台周辺地区の整備による来街者の増加を踏まえ、平塚駅からのメインルートである東海道本通り線(市民プラザ前交差点～見附台周辺地区)と、平塚文化芸術ホールに至る見附町7号線において、良好な道路空間を形成するため、歩道の美装化や無電柱化などの景観整備を行いました。

今後は、イベントなどのソフト施策によって平塚宿を感じる景観を演出していくことが考えられます。

景観整備された見附町7号線



○官民の空間を活用した取組み「平塚茶屋プロジェクト」

駅前商店街の若手店主を中心に結成された平塚まちなか活性化隊が主体となり、長椅子と野点傘を設置し、平塚宿の雰囲気のある休憩スペースを開く「平塚茶屋プロジェクト」を実施しています。

この取組みは、東海道本通り線の歩道部分と崇善公民館の敷地を一体的に活用し、平塚文化芸術ホールで行われているイベントに併せて実施しています。このように、既存のイベントや官民の空間を活用し、滞留スペースなどを実験的に創出していくことが考えられます。

平塚茶屋プロジェクトの様子



(7)公園・広場

平塚駅周辺地区内の公園の多くは、開設から60年以上経過しています。本来の遊戯、休養、防災などの機能のうち、現在では日常の人々のレクリエーションの空間としての機能がより求められるようになっていきます。

今後、再整備する際は、より安全で快適に活用しやすい空間づくりを目指します。

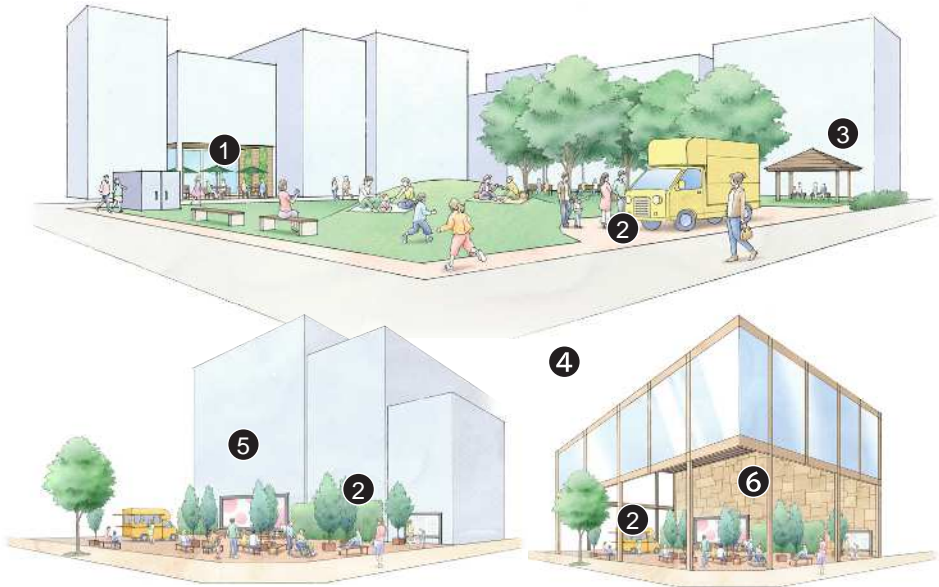
■公園・広場の将来像

安全で快適に過ごし
集い 交流できる公園・広場

■まちづくりの方向性

- 既存の公園・広場は、周辺の道路や建物を一体的に活用できるような空間の創出を目指すとともに、商店会や店舗側が柔軟に活用できる仕組みづくりを目指します。また、民間開発に伴う空地や暫定的な空き地などを活用していくことにより、交流・にぎわいを生む広場などの配置を目指します。
- 安全・快適に過ごすことができる場として、遊ぶ・休憩する以外にも、イベントの開催や交流が生まれるような機能を創出し、常に活用される公園・広場を目指します。また、災害時に活用できる場とするために、防災倉庫や災害時に活用できるマンホールトイレ、かまどベンチなどの設置も検討します。
- さらに、建物の更新に併せて公開空地を活用した広場を整備するなど、まちなかに広場の配置を誘導します。

参考イメージ



- ①周辺の店舗と連携した飲食スペースの創出 **方針2**
- ②マルシェなどのイベントに活用できる空間を確保 **方針2**
- ③地域のコミュニティが生まれる空間を整備 **方針3**
- ④イベント時に多様な使い方ができる空間や仕組みづくり **方針4**
- ⑤建物の建替えに併せて広場を誘導 **方針4**
- ⑥天候に左右されない広場を整備 **方針4**

方針○ 対応するまちづくりの方針を示しています。なお、複数の方針が対応している場合は、代表的な方針を示しています。また、地区全体に関わる方針は記載せず、当該エリアの特徴的な方針のみ示しています。

コラム

○公園を活用した周辺に波及効果のある取組み例

東京都豊島区 南池袋公園

東京都豊島区の南池袋公園では、公園と隣接する道路(グリーン大通り)を含むエリアを活用したマーケットが年4回開催されています。

マーケットでは池袋周辺で活動しているクラフト作家やローカルな飲食店などが出店し、ストリートファニチャーで食事や会話を楽しむ人が見られ、コンセプトである“まちなかりビングのある日常”の風景が広がります。

公園・ストリートを起点とした日常の暮らしを耕すプロジェクト「IKEBUKURO LIVING LOOP」によって、訪れた人が通り過ぎるだけではなく、その空間に滞在したり、歩き回りたくなる状況が生まれはじめています。

南池袋公園



グリーン大通り



写真提供:株式会社nest

○空き地を活用した暫定的な交流施設の創出例

佐賀県佐賀市 わいわい!!コンテナ2

佐賀県佐賀市では、まちなかの空き地に雑誌や絵本、マンガが自由に閲覧できる「読書コンテナ」や子供たちからお年寄りまで、天候を気にすることなく憩い、集える「交流コンテナ」、チャレンジショップの出店やギャラリーとしての利用など、市民の皆さんのアイデアと工夫で様々な使い方ができる「チャレンジコンテナ」を設置した取組み「わいわい!!コンテナ2」を実施しています。空き地を暫定的に活用し、くつろぐ、友達との待ち合わせ、ランチ、仲間のおしゃべりなどに利用できる空間を創出しています。

わいわい!!コンテナ2の様子



写真提供:株式会社ワークヴィジョンズ

(8)駅前広場

本市の玄関口である平塚駅には、北口、南口、西口があり、北口と南口には駅前広場が整備されています。

現状では、北口駅前広場はバス、タクシー、自家用車といった複数の交通手段の発着点となっており、飽和状態となっているため、複数の駅前広場の機能分担により、円滑な乗り換えや本市の玄関口としての機能の向上を目指します。

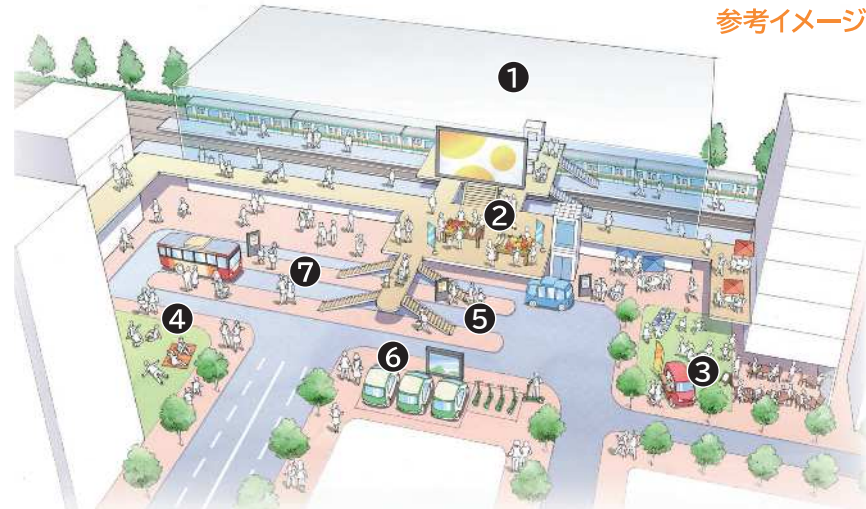
■まちづくりの方向性

- 駅前広場は、市外から訪れる方にとっての玄関口となるため本市の特徴やまちの活動が感じられ想像がふくらむ場の創出を目指します。
- 公共交通などの配置や地下道などの既存施設のあり方を検討し、駅と公共交通、周辺の建物へのアクセス性の向上を目指します。また、一層のバリアフリー化への配慮により安全に通行できる場とすることや経路をわかりやすくし、混雑緩和などを目指します。
- 駅前広場の再整備や駅前広場に面した建物の建替えに併せて、広場などの設置や建物低層部をまちに開けた空間にすることで一体的に活用できるようにし余暇活動や子育て支援活動、企業活動、医療などの多様な活動が生まれるよう、機能誘導や仕組みを検討します。
- 市有地を含む敷地などについては、有効に活用し都市機能の誘導を進めていく機会の創出を目指します。
- 自動運転をはじめとした最新技術に対応した駅前広場を目指します。

■北口駅前広場の将来像

様々な公共交通へ乗り換えやすく
多様な活動と平塚の魅力に出会える拠点

参考イメージ



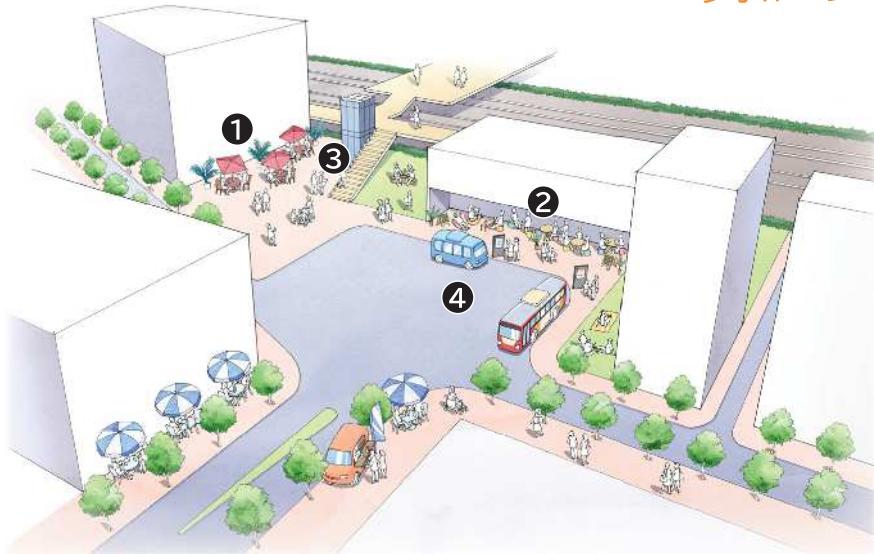
- ①平塚の魅力を感じられる機能の検討 **方針1**
- ②余暇活動など様々な活動を行える場づくり **方針2**
- ③店舗と一体的な活用による滞留・交流空間の創出 **方針2**
- ④沿道店舗と公共空間の一体的な活用のための建物更新 **方針4**
- ⑤地下空間の有効活用を検討 **方針6**
- ⑥最新技術に対応した多様な交通に乗り換えられるハブ機能の整備 **方針6**
- ⑦自動運転など最新技術に対応したロータリー整備 **方針7**

方針○ 対応するまちづくりの方針を示しています。なお、複数の方針が対応している場合は、代表的な方針を示しています。また、地区全体に関わる方針は記載せず、当該エリアの特徴的な方針のみ示しています。

■南口駅前広場の将来像

様々な公共交通へ乗り換えやすく
海を感じる交流拠点

参考イメージ

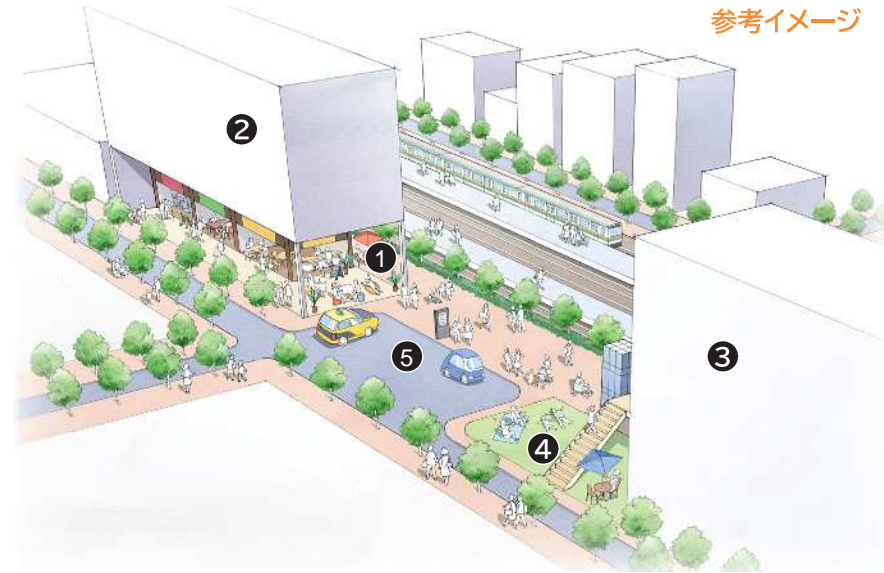


- ①海が感じられるイベントの実施 方針2
- ②多くの人が集まる機能を誘導 方針3
- ③沿道店舗と公共空間の一体的な活用のための建物更新 方針4
- ④自動運転など最新技術に対応したロータリー整備 方針7

■西口駅前広場の将来像

より快適に電車に乗り換えられる
平塚の活力を感じる新しい拠点

参考イメージ



- ①店舗と一体的な活用による滞留・交流空間の創出 方針2
- ②多くの人が集まる機能を誘導 方針3
- ③近隣の民間建物と連携した再整備 方針4
- ④沿道店舗と公共空間の一体的な活用のための建物更新 方針4
- ⑤自動運転など最新技術に対応したロータリー整備 方針7

方針○ 対応するまちづくりの方針を示しています。なお、複数の方針が対応している場合は、代表的な方針を示しています。また、地区全体に関わる方針は記載せず、当該エリアの特徴的な方針のみ示しています。

コラム

○駅前広場におけるまちの魅力発信の取組み例

神奈川県藤沢市 藤沢駅北口「サンパール広場」

藤沢駅北口駅前広場のペDESTリアンデッキ「サンパール広場」は令和元年（2019年）にリニューアルし、時計塔ベンチのあるウッドデッキの待ち合わせ広場や、藤棚のあるガーデンテラス、人工芝を敷き詰めたガーデンパークなど、イベントや休憩ができる広場となっています。

また、毎月第3土曜日と日曜日は、地元湘南をはじめ各地から魅力的な品々を一堂に集めたマルシェ「MARKET251」が開催されるなど、まちの魅力発信の場としても活用されています。

ナイトマーケット251の様子



○まちの特徴を感じられる取組み例

千葉県千葉市 マルシェイベント「パラソルギャラリー」

千葉駅前大通り(中央公園プロムナード)に並べられた白いパラソルの下、市民の作品やパフォーマンスを展示・表現する催しです。

市民が主体となり、「にぎわいの創出と魅力ある景観形成による市街地活性化を目指す」を理念とし、手工芸品、絵画、陶芸品、ガラス細工など、様々なギャラリーで大通りが彩られ、街ににぎわいをつくり出します。

駅前広場は、本市の玄関口として魅力や特徴を発信する取組みの発着点としていくことが考えられます。

パラソルギャラリーの様子



出典:千葉市ウェブサイト